

(19) 日本国特許庁 (JP)

(12) 登録実用新案公報 (U)

(11) 実用新案登録番号

実用新案登録第3146444号
(U3146444)

(45) 発行日 平成20年11月13日 (2008.11.13)

(24) 登録日 平成20年10月22日 (2008.10.22)

(51) Int.Cl.

H04M 1/04 (2006.01)

F I

H04M 1/04

Z

評価書の請求 未請求 請求項の数 1 O L (全 4 頁)

(21) 出願番号 実願2008-6276 (U2008-6276)

(22) 出願日 平成20年9月5日 (2008.9.5)

(73) 実用新案権者 000134707

株式会社ナカヨ通信機

東京都渋谷区桜丘町24番4号

(72) 考案者 谷口 幸弘

東京都渋谷区桜丘町24番4号 株式会社
ナカヨ通信機内

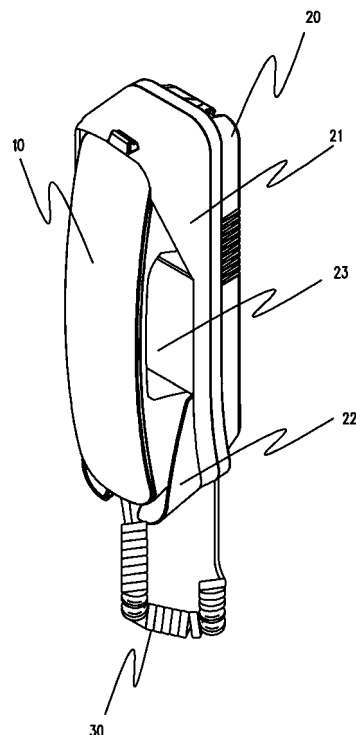
(54) 【考案の名称】 壁掛け電話機の送受話器脱落防止構造

(57) 【要約】 (修正有)

【課題】 壁取付型の電話機で、送受話器に外力が加わっても容易に脱落しない構造を提供する。

【解決手段】 送受話器 10 を保持するためのツメを設けた電話機本体 20 から送受話器の受話口部分の左右側面を覆う第 1 の縁 21 と、送話口部分の左右側面及び下面を覆う第 2 の縁 22 を電話機本体 20 に設けて送受話器の動きを規制し、身体の一部が接触する等で電話機が直接大きな外力を受けた場合でも縁がガイドする事で容易には脱落しない事を可能とした。

【選択図】 図 1



【実用新案登録請求の範囲】**【請求項 1】**

送受話器を保持するためのツメを設けた電話機本体と前記ツメにかん合する凹部を設けた送受話器からなる壁掛け電話機において、送受話器の受話口部分の左右側面を覆う第 1 の縁と、送話口部分の左右側面及び下面を覆う第 2 の縁を電話機本体に設けて送受話器の動きを規制し、外力による送受話器の脱落を防止することを特徴とする壁掛け電話機の送受話器脱落防止構造。

【考案の詳細な説明】**【技術分野】****【0001】**

10

本考案は、壁掛け電話機の送受話器脱落防止構造に関するものである。

【背景技術】**【0002】**

電話機を壁面に設置して使用する場合、送受話器の受話口下部に設けられた凹部に電話機本体に設けられた壁掛け用ツメを引掛けて送受話器を固定する構造が一般的に用いられている。

【考案の開示】**【考案が解決しようとする課題】****【0003】**

しかしながら、前記構造では固定部は送受話器の上部（受話口部分）のみとなっており送受話器下部に自由度があることと、送受話器の自重にて保持されているだけであることから、送受話器下方向や横方向から外力が加わると送受話器が電話機本体から脱落してしまうという欠点があった。

20

前記欠点を除去するため、例えばスポンジ状のホルダを受話口下部に設置し、送受話器の動きを規制する提案が開示されている。

【特許文献 1】特開平 09 - 200313 号公報**【0004】**

しかしながら、前記提案では地震のような振動に対しては脱落を防止する効果はあるものの、送受話器が電話機本体の表面から突出しているため、人などが壁掛け電話機の周囲を通行する際に身体の一部が接触する等で送受話器が直接大きな外力を受けた場合には脱落を防止することが困難である。

30

本考案は上記の問題点を解決するもので、電話機が直接大きな外力を受けても送受話器が脱落しないように保護を行うものである。

【課題を解決するための手段】**【0005】**

上記の課題を達成するために、送受話器を保持するためのツメを設けた電話機本体と前記ツメにかん合する凹部を設けた送受話器からなる壁掛け電話機において、送受話器の受話口部分の左右側面を覆う第 1 の縁と、送話口部分の左右側面及び下面を覆う第 2 の縁を電話機本体に設けて送受話器の動きを規制し、身体の一部が接触する等で電話機が直接大きな外力を受けた場合でも送受話器の脱落を防止できる脱落防止構造とした。

40

【0006】

送受話器全体を覆うと送受話器を外す動作を行う際に持ちにくくなるため、送受話器中央部は縁を設けない。送受話器に外力がかかり脱落する時は送受話器が固定部を中心に回転して外れる為であることから、縁は送受話口側と送話口側の両端に設けガイドすることで回転を防止し脱落を防止する事が可能である。

また、電話機本体から送受話器下面側にも縁を設け覆うことで下面からの外力が直接送受話器にからないようにする。

【考案の効果】**【0007】**

本考案に係わる壁取付型電話機の送受話器脱落防止構造によれば、送受話器側面及び下

50

面の縁を設けた部分は送受話器に直接外力がかからない為に脱落を防止できる。

また、送受話器側面の縁を設けていない部分に外力が加わったとしても送受話器の回転を防ぎ脱落には至らない。

【実施例】

【０００８】

以下、図面を参照して本考案の実施の形態について詳細を説明する。

図１は本考案による一実施例の全体構成を示す斜視図である。１０は送受話器、２０は電話機本体、３０は電話機本体２０と送受話器１０を接続する送受話器コードである。

２１は電話機本体２０に設けた送受話器上端受話口部分の左右側面を覆う第１の縁、２２は送受話器下端送話口部分の左右側面と下面を覆う第２の縁であり、側面や下面から外力がかかっても前記各縁２１，２２が送受話器１０を保護し送受話器１０に直接外力がかからないようになるため送受話器１０の脱落を防止する。また、２３は電話機本体２０と送受話器１０の間の空間であり、送受話器１０を取り外す際に手を入れて容易に送受話器１０をつかむ事が可能である。

【０００９】

図２は正面図、図３は側面図である。

なお、以下は図面の複雑さを避けるため、送受話器コード３０は図示を省略している。電話機を壁面に設置して使用する場合の固定構造は１１送受話器取付穴に、２４電話機本体の取付用ツメを引掛けて取付ける。

図４は従来の壁掛け電話機の斜視図である。縁２２が無いと１１及び２４を中心に矢印a方向又はb方向に回転して送受話器が脱落するが、図１に示す様に縁２２があることで回転を抑止し脱落を防止する。

【図面の簡単な説明】

【００１０】

【図１】本考案による一実施例の全体構成を示す斜視図である。

【図２】本考案による一実施例の全体構成を示す正面図である。

【図３】本考案による一実施例の全体構成を示す側面図である。

【図４】（a）は従来の壁掛け電話機の斜視図、（b）は従来の壁掛け電話機の側断面図である。

【符号の説明】

【００１１】

１０	送受話器
１１	送受話器の凹部
２０	電話機本体
２１	電話機本体の第１の縁
２２	電話機本体の第２の縁
２３	送受話器をつかむ為の空間
２４	電話機本体の壁掛け用ツメ
２５	送話口部分の側面
３０	送受話器コード

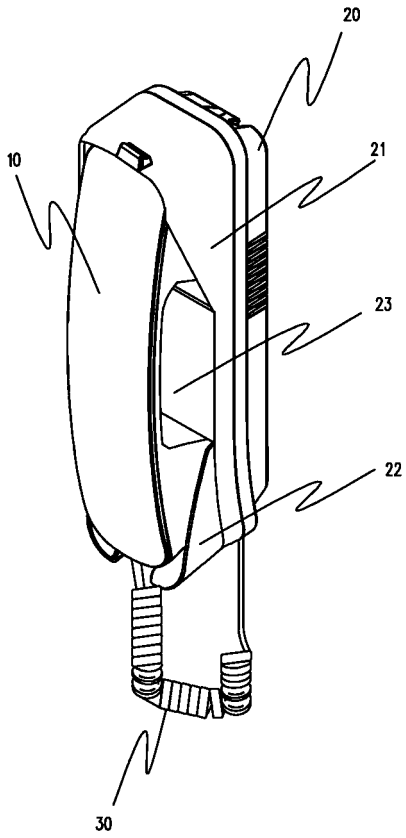
10

20

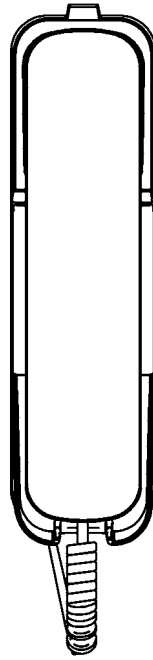
30

40

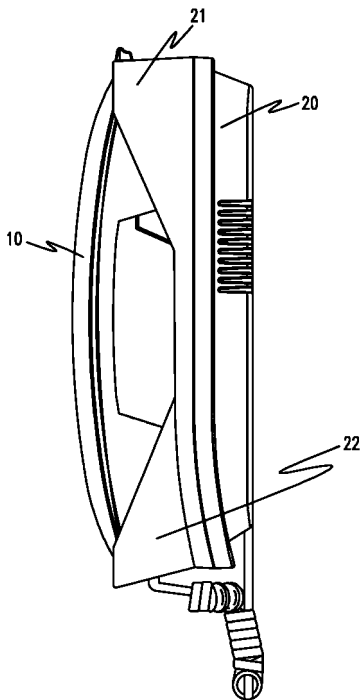
【図 1】



【図 2】



【図 3】



【図 4】

